

本日のおもちかえり  
2017年11月26日

- 1) ローマ8章12節-17節を読みましょう。心に残る言葉がありますか。
  
- 2) メッセージの中で「**私たちはみんな親なし子のろくでなしだが、それでもとにかく、神は私たちが愛している**」という言葉を紹介しましたが、あなたはこの言葉をどう受け止めますか。「親なし子」「ろくでなし」「それでも愛している」という一つ一つの言葉にはどんな意味がありますか。
  
- 3) 紀元前1500年、イスラエルの民に与えられた十戒の中に「主の名をみだりに唱えてはならない」という戒めがありました。これに対してイエス様は神を「アバ、父よ！」（現代で言うとお父さん!）と呼ばれ、さらには私達にもそのように神を呼ぶように勧め、このことに命をかけました（ヨハネ5章18節、19章7節）。なぜこのことはイエス様が命をかけるほどに大切な事だったのでしょうか。
  
- 4) 父なる神の子であるということは、神の前に自分が何をしているのか（DOING）ということに着目するのではなくて、自分は神の子である（BEING）ということをもそのまま受け入れることとはどういうことですか。私達は親が定めた基準に達した時にはじめて親の子となるのですか。
  
- 5) 私達の父なる神は私達がいつも正しく生きることができるか厳しく監視している存在ですか。それとも私達が人生を喜び生きることができるように見守っている存在ですか。
  
- 6) ローマ8章17節を読みましょう。私達は天地万物を支配しておられる父なる神の相続人であるということに対してどう思いますか。「キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている」という「栄光」と「苦難」は何を指していますか。
  
- 7) 父なる神のまなざしの中、恐れることなく、安んじて日々を過ごしましょう。そのまなざしの中にいるということを知る時に私達はどんな思いになりますか。